

会議録

会議の名称	令和6年度 第2回 西東京市青少年問題協議会
開催日時	令和6年11月7日（木） 午前10時から午前11時15分まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎5階 503会議室
出席者	出席委員：高松副会長（座長）、今井委員、井上委員、紺野委員、瀬沼委員、鈴木委員、田村委員、濱野委員、平井委員、村上委員、山崎委員 事務局：遠藤子育て支援部長、河野児童青少年課長、菅原児童青少年課管理係長、水田児童青少年課管理係主任、中村児童青少年課管理係主事 欠席委員：波田委員、森本委員、湯浅委員
議題	1 協議事項 （1）専門部会におけるヒアリングについて （2）今後のスケジュールについて 2 その他
会議資料の名称	会議次第 資料1 専門部会におけるヒアリングについて（報告） 資料2 第12期青少年問題協議会スケジュール案
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会議内容	
◆前回会議録の承認 1 協議事項 （1）専門部会におけるヒアリングについて ○専門部会長： 8月20日の第2回専門部会では委員の皆様よりご意見をいただき、専門部会では、教育指導課、教育支援課、下保谷児童センター、ひばりが丘児童センターとオンラインの居場所の取組を行っている団体にヒアリングを実施することとした。 10月9日の専門部会では各ヒアリング先から、子どもたちの居場所についてとオンラインでの支援などについてご説明いただいた。 教育指導課からは、不登校の児童が増加傾向にあることや、支援として、オンライン授業の提案や、学校内別室という対応をしていることが分かった。 学校としての不登校の未然防止策は、係活動、クラブ活動、委員会などで自己肯定感を高めてもらうなど、学校が居心地のよい居場所にするための取組を行っているとのことであった。 教育支援課からは、スキップ教室やNicomoroom、ニコモテラスなどでその子の心の段階に合わせて、親子への支援をしているとのことであった。 スクールソーシャルワーカーについては、子どもや保護者の相談に応じ、家庭訪問をするなど、学校以外の場所に出向いての支援や、支援先に一緒に出向くなどしているとのことであった。	

スキップ教室、Nicomoroomやニコモテラスでは、子どもが持っているタブレットを用いてオンラインでの対応もできるが、実際には、職員や他の利用者と遊びなどを通して継続的に通室できている子どもが多い状況であった。

下保谷児童センター、ひばりが丘児童センターからは、中高生利用の実情を伺うことができた。児童センターに目的をもって利用する子と、目的はなくふらっと立ち寄って職員と話す子やその場にいる子と一緒に遊ぶ子がいるとのことであった。

両センターの利用者は、ともにWi-Fiの整備を希望しているようである。中高生のスマートフォンの利用が多いことや、特に下保谷児童センターでは、子どもたちがバンド練習をする際の楽譜等を見るためにインターネット環境が必要とのことであった。

○A委員：

ヒアリング先には、どのような質問をしたのか。

○事務局：

不登校の現状について、学校に行っていない子ども達がどのような場所に行っているのか、保健室登校をしている子ども達がどの程度いるのか、不登校の子ども達、保護者達にどのようなサポートをしているのか、オンラインでの取組はあるか等を質問した。

下保谷児童センター、ひばりが丘児童センターには、中高生の実情、不登校の子ども達が来館された際には、どのような対応をしているのか、利用者からWi-Fi整備の要望はあるか質問をした。

○B委員：

Nicomoroomやニコモテラスは多くの利用者がいること。その利用の過程で学校に戻ることができた子ども達がいることはとても良い。

コミュニティスクールの会議の中で、不登校の原因が家庭での生活習慣にあると学校から発言があった。

不登校に関する市の認識と学校の認識を合わせて、不登校への対応をしていただければと思う。

○C委員：

不登校になる前の子ども達を未然に防ぐ方法を一層検討すべきだと思う。

ヒアリングを行った結果、不登校の子ども達は、対面で人と話すことを求めているように感じた。

中学校ではスクールカウンセラーが足りていないと思う。

「放課後カフェ」という取組を行っているが、そこで子ども達は、人との繋がりを感じている。利用者からは次回開催について聞かれるほど需要がある。

利用者から話を聞くと、不登校ではないが家庭環境が悪く、問題を抱えている子ども達がいることが分かった。

子ども達は、オンライン上でコミュニケーションを取ったり、特殊詐欺のようなところに巻き込まれたりするような状況にあるかと思っていたが、そうではなく、中学生などは、単に動画を見ているだけという子が多い様子であった。

○D委員：

不登校の主な原因として、鬱^{うつ}と記載があるが、医師から診断をされたものなのか、鬱^{うつ}症状があるだけで診断はされていないのか。

○専門部長：

診断がされているかは定かではないが、学校からの報告では不登校の主な原因のひとつとして挙げられていた。

○E委員：

スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、特別支援教室（せせらぎ教室）などの横の連携が取れていないと感じている。

スクールソーシャルワーカーと特別支援教室（せせらぎ教室）の内容が異なり、スクールソーシャルワーカーの利用は楽しいが、特別支援教室（せせらぎ教室）の利用は楽しくないということで、不登校の子ども達が特別教室（せせらぎ教室）に行きたがらないという現状があると感じている。

特別支援教室（せせらぎ教室）のオンライン授業では、教室内を映しているだけなので学校に来ているのに何もできていない状況も見受けられる。4、5年生がメインで、このままでは進学した際に再度学校に通うことができなくなるのではないかと。特別支援教室（せせらぎ教室）の専門の先生を設置するなど検討が必要である。

○F委員：

教育指導課の説明の中で、中学校はオンライン授業を勧めても受け入れられない状況であるということだったが、それはシステム上の問題なのか、それとも子ども達の心理的なものなのか。

教育指導課から説明のあった不登校の未然防止策として「自己肯定感を高めるために係活動やクラブ活動」が挙げられているが、「自己肯定感」という言葉に疑問を感じる。不登校の自分を認めてあげる自己肯定感もあるのではないかと。

○事務局：

小中学校でもオンライン授業を受けている子ども達はあるが、子ども達にオンライン授業を提案しても利用数が増えていかない状況があるという話もあった。学校側がオンラインでの対応を受け入れられないということではない。

○E委員：

オンライン授業というのは、どのような内容のものを指すのか。

教室の中を映しているものがオンライン授業なのか、それとも黒板を写しているものがオンライン授業なのか。

○C委員：

黒板のみを写している学校もある。

小中学校で不登校の理由も変化しており、人間関係といった理由の他に、授業についていけないという理由もある。

学校からオンライン授業を勧められても、子ども達は既に授業についていけない

め、オンライン授業を受けない状況にあるのではないか。

保健室でオンライン授業を受けている子ども達もいるが、保健室に1日いることができないことや、保健室の性質上、怪我人の対応のため、落ち着いて授業を受けられる場所ではないため、環境は整っていないと感じる。

○E委員：

コロナ禍ではオンライン授業を意識して授業の構成を考えていたが、通常授業に戻った結果、通常授業を優先しているのでオンライン授業に対応ができていない。

○B委員：

中学校の指導要領も変化しており、隣の席の子ども達同士で教えあったり、聞きあったりして授業を進めており、先生が黒板で教えるという授業から変化している。その様子をオンライン授業で配信しても子ども達はついていけないと考える。

○E委員

学校によってオンライン授業の形式に差があるのは問題ではないか。

○G委員：

学力のみのオンライン対応ではなく、教室の雰囲気が分かるようなオンラインの対応などはないか。

○E委員：

給食の時間の映像を配信している学校もある。

○F委員

自分はやはり「自己肯定感」ということが気になる。積極的に学校の委員会等に関わっていない子ども達が、自己肯定感を高めるために係活動やクラブ活動、委員会等に関わることは難しいのではないか。

○G委員：

ここでの「自己肯定感」とは、係活動等を通して自信をつけていくことの意味ではないか。

○F委員：

子ども達にそのような意味が伝わればよいが、伝わり方次第で対応が難しくなるのではないか。

○座長：

不登校について、子ども達意思を尊重する家庭が増えているのではないか。

○H委員：

オンライン上のみでなく、実際に対面での関係も必要と考える。

○事務局：

2月の専門部会では、オンラインで居場所を提供している団体からヒアリングを行う予定である。

○I 委員：

対面でのコミュニケーションが苦手な子ども達が、一時的にオンラインの居場所に入り、その中で対面でのコミュニケーションを取れるきっかけをつかみたいと思っているのではないかと感じた。

西東京市として、オンラインでの居場所を充実させるのか、対面でのコミュニケーションを取れるようにするための手段としてオンラインを使うのか、方向性を考えることが必要ではないか。

小学校であれば、行事やクラブ活動などで子ども達が能力を発揮し自己肯定感を得られる居場所をどう作っていくか、中学校であれば、進級するにあたり学業でつまずかないようにどうフォローするか、それぞれ検討する必要がある。

西東京市立柳沢中学校で行われているヤギカフェでは、地域の方々も含め、学校と繋がるができている。

○座長：

大学でもオンラインでの居場所を提供しているが、なかなか利用者は増えない状況である。

オンラインの居場所を提供しても、子ども達は対面でのコミュニケーションを求めているように感じる。

本日の議論では、オンラインの普及を目的とするのではなく、対面でのコミュニケーションの一助としての、オンライン活用を考えていく必要があるというご意見が出た。

今後の検討の方向性としては、対面でのコミュニケーションの一助としてのオンライン活用を検討していくということによろしいか。

(異議なし)

○座長：

テーマに対して具体的な取り組みは専門部会にて話を進めることでよろしいか。

(異議なし)

1 協議事項

(2) 今後のスケジュールについて

○座長：

事務局より今後のスケジュールについての説明をお願いしたい。

○事務局：

(今後のスケジュールについて説明)

2 その他

○座長：
事務局より何かあるか。

○事務局：
(連絡事項なし)

○座長：
以上で令和6年度第2回青少年問題協議会を終了とする。

閉会